
吸血鬼のいる時代

FOX

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

吸血鬼のいる時代

【Nコード】

N9402Y

【作者名】

FOX

【あらすじ】

シヨートを書いてみました。

吸血鬼から逃げ惑う男の話です。

帰宅途中の電車の中、中吊り広告を見上げ、私はため息をついた。

「吸血鬼、またも現れる！8人目の犠牲者」

まったく……。最近、テレビも新聞もこの手のニュースばかり流している。

吸血鬼だかゾンビだか知らないが、そんな物本当にいるわけがない。電車内はシンと静まり返っている。

この「吸血鬼」と称される物の出現で、社会全体が陰気な雰囲気にも包まれてしまっていた。

広告から目を落とすと、目の前の男が隣の女子高生の尻に手を当てている。

（健全なもんだな……）

なんだか久しぶりに人間味に触れたような気がして、私は不謹慎にも

「ぶっ」

と吹き出してしまった。

駅からの帰り道、街灯のまばらな道を歩く。

家内が

「駅からの帰り道は危ないんだから、気をつけてよ。吸血鬼が出るかもしれないよ」

と怯えていたのを思い出す。社内でも「一人になると危ないから」と、連れ立って帰る者も多くなってきている。まったく、どうかしている。

「逃げる！」

ふいに後ろから叫び声が聞こえた。

振り向くと、一人の男が走ってこちらへ向かってきている。

「出たんだ！吸血鬼だ！こっちに向かって来てる！」

突然の出来事に、私は固まってしまった。

「なにしてる！逃げるんだ！」

黒目を潤ませながら必死に叫ぶ男の目を見た瞬間、私は鞆を投げ、駆け出した。

男も数メートル後ろをついてくる。

「・・・み、見たんだ。あれは、吸血鬼だ。間違いない・・・。本当に、いた、んだ・・・」

苦しそうに息をしながら男は叫ぶ。

「目が・・・真っ赤だった。あんな恐ろしい、化け物、見た事がない。人を、喰ってた。噛み付いて血を吸うなんて、もんじゃない。頭、から、丸呑みだ。俺を見つけると、追ってきた」

私は耳を両手で塞いだ。(嫌だ、聞きたくない!)
なんて事だ。本当に吸血鬼がいたなんて・・・!
私は半ばパニックになりながら走り続けた。
と、男が躓き、倒れた。

「嫌だああ！置いて行かないでくれ！」

男の叫び声が聞こえぬよう、両手に力を込め、私は走り続けた。
冗談じゃない、吸血鬼なんかには捕まっただまるか・・・!

角を曲がると、我が家が見えた。もう少しだ・・・!

そう思った瞬間、数メートル前方に巨大な人影が現れて私の前に立ちふさがった。

まさか、これが・・・!?

しかしよく見ると、その人影は警官の制服を着ていた。

警官だ！助かった・・・!

私が駆け寄ろうとすると

「やめろ！近づくな！」

と、後ろから先程の男の声が聞こえた。

「そいつだ！そいつが吸血鬼だ！」

振り向き、あっけにとられていると、後ろから強い力で肩を掴まれた。

見上げると、警官の制服を来たその男は、真っ赤な目でこちらを見ていた。

「やめろ！その人から手を離せ！」

男が叫びながら駆け寄ってくる。

私は逃げようと暴れたが、掴まれた手の力が凄まじく、振り払えない。

・・・嫌だ・・・！死にたくない・・・！

私は固く目を閉じた。

その時、「パンツ」と乾いた音が響いた。

肩を掴んでいた手の力がふつと弱まる。

助かった・・・のか・・・？

私はゆっくり目を開いた。

・ エピローグ

パトカーが到着し、辺りはライトの光に包まれていた。

私は恐ろしさのあまり、まだ両手で耳を塞いでいた。
男が私の手を優しく包み込んで、話しかけてきた。

（もう大丈夫ですよ。危ない所でしたね）

（いえ、本当に、助かりました……。ありがとうございます）

（しかし本当にいたとはねえ……。）

男は吸血鬼の死体を覗き込む。

そして、耳からぽんつと耳栓を取り出して言った。

（鳴き声で感染させるなんて、恐ろしいもんです。案外、昔の人間は皆ああやって音を出してコミュニケーションを計っていて、目もあんな色だったのかもしれないよ）

男は真つ赤な目を悪戯に細めた。

私は身震いしながら答える。

（やめてくださいよ……。触れ合わないで人と人が会話するなんて、恐ろしい……。）

手を耳から離すと、街はいつも通りシンと静まり返っていた。

F i n n .

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9402y/>

吸血鬼のいる時代

2011年11月28日01時55分発行